

卵巣がん患者さん、ご家族のみなさまへ
「オプジーボ®について」
卵巣がん体験者スマイリーからのお願い



日頃より卵巣がん体験者の会スマイリーの活動にご理解とご協力ありがとうございます。

ここ数日、テレビではノーベル賞を取った「オプジーボ® (一般名ニボルマブ)」に関する報道があり、お祝いモードです。
もちろん私たちスマイリーも、ノーベル賞受賞をお喜びしております。

いっぽうで、ここ数日、患者さん、ご家族のみなさんより

「オプジーボは卵巣がんでも使えるのですか？」

「今の治療をやめてオプジーボを使ったほうがいいですか？」

「テレビを見た人からオプジーボをしたらいいのではないかと勧められました」

「“再発予防 オプジーボ”で検索したら免疫細胞療法のクリニックがみつかったのですが効果はありますか？」

といった相談が増えています。

一部のメディアではノーベル賞を受賞された先生のお人柄が中心に紹介され、オプジーボがどのがんで承認されているか、どの程度の効果があったかというような伝え方はされておらず、

「がんに効果がある」「生存期間を延ばした画期的な薬である」

といった専門家の言葉があったりし、患者さんやご家族、一般のみなさまには

「正しいとはいえない情報」として伝わったものと思います。

オプジーボは

悪性黒色腫

切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌

根治切除不能又は転移性の腎細胞癌

再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫

再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌

がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌

がん化学療法後に増悪した切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫

に現在承認されており、卵巣がんには今日（平成 30 年 10 月 4 日）現在承認されていません。

卵巣がんに対しても治験は行われていましたが、その結果を解析などして卵巣がんの治療薬として製薬企業が独立行政の法人医薬品医療機器総合機構に承認申請をし、厚生労働省に承認されるまでは患者さんにとって良いのか悪いのか私たちにはわかりません。

私たち患者会は医療機関ではありません。

みなさんにとって「この治療はいいですよ」なんて無責任なことは言えません。

しかし、お問い合わせいただく方はどなたも治療に苦慮していたり、再発の不安で押しつぶされそうになっていたりで、何かいい治療はないのかという切実な思いをお持ちだと、同じ卵巣がんの患者として思っています。

そういったときに「どのがんに、どの程度効いたか」も不確かな情報が耳に飛び込んできた時に「私にもよいのかしら」と思われることは当然です。

だから、このスマイリーからの発信を見て「オプジーボはつかえないのか」と落ち込まれないか心配しています。

インターネットを検索すると、オプジーボを自由診療で使えるというとても安易な言葉で患者さんを誘導するページがいくつも見受けられます。

しかしオプジーボは日本臨床腫瘍学会が警告をしているように「重篤な副作用」に対する対策も大切で、使っていない施設要件などが決められています。

<http://www.jsmo.or.jp/news/nivolumab/>

どうか、そういった承認されていない治療を施設要件も満たさず、患者さんの安全確保もしないで行う自由診療クリニックなどに騙されないようお願いします。

卵巣がんには

初回化学療法、プラチナ感受性再発卵巣がんの化学療法（プラチナ製剤を使った

前の治療から6ヶ月以上の再発)、プラチナ抵抗性再発卵巣がんの化学療法(プラチナ製剤を使った前治療から6ヶ月以内の再発)いずれも科学的根拠のある標準治療があり、ガイドラインに掲載されています。

もちろん治療を受けても「効果」が必ずあるとは限らず不安はあると思うのですが、標準治療はこれまで何年、何十年もかけて多くの卵巣がん患者さんにご協力いただきながら、卵巣がんの初回治療、再発治療にどのような治療がいいか臨床試験を行い、卵巣がん患者さんにとって良い治療はないか検証してきたものであり、患者さんが治療を行ううえでの大切な地図です。

もちろんそこに個別の事情(例えば骨髄抑制が出やすい、痺れが辛いなど)がありますから、患者さんの体調や希望なども踏まえたご意見を伺いながら、患者さんにとって「どうしていくことが最善か」合意していくことが大切です。

地図があっても目的地にたどり着くためにどうするかというのは医師と患者とのコミュニケーションが大切であるということです。

卵巣がんはこの10年でドキシル®、ジェムザール®、ハイカムチン®、アバスチン®、タキソール®の毎週投与方法、リムパーザ®など多くの治療法が承認され、今もいくつかの抗がん剤の治療が行われています。

いま、みなさんにとってどうすることが最善なのか主治医の先生としっかり話し合い治療を選択していただければ幸いです。

もちろんその途中、途中で困ったなということがありましたら、私たちスマイリーにご相談いただくことも可能です(医療機関ではないので一般論でしかお話しはできないことをご了承ください)。

そして患者さんを支える周囲のみなさまにお願いです。

患者さんは日々不安や病状と向き合いがんばっておられます。

「良かれと思って」の不確かな情報提供は患者さんにまやかしの希望を与え、時には健康被害を与えかねない、絶望を与えてしまうこともあります。

どうか、情報提供は慎重であってほしいと願います。

<お問い合わせ>

卵巣がん体験者の会スマイリー 片木美穂 080-7038-9750 (平日10時~17時)